

## 交流の家の取組紹介

### ～表紙絵の植物紹介～

【モクレン】

モクレンは、4～5月に花を咲かせ、春の訪れを感じさせてくれる花木の1つです。地球上で最古の花木と言われており、1億年以上も前からすでに今のような姿であったそうです。



花言葉は「自然への愛」。春の花がいつに咲き誇る季節に、枝先に大きな花をつけ、自身も目一杯自然を謳歌しているような花姿にちなみとも言われています。春になったら立ち止まって、その姿を眺めてみてください。

(文：山下)

### 【利用団体のための体験活動研修会】

2019年度より、利用団体のための体験活動研修会を実施します。本所を利用する団体(小中学校)の引率者が、事前に施設の利用方法や各プログラムの内容を理解できるよう、実際のプログラム体験を行います。

4月20日(土)、6月22日(土)は所内プログラムが中心となります。午前中は施設利用についての説明及び施設見学、質疑応答、野外炊事体験、午後はオリエンテーリング、かんな箸づくり、竹とんぼ作りから選択して体験します。

5月11日(土)、7月15日(月)は登山体験を中心に行います。午前中は施設利用についての説明及び施設見学、質疑応答を行い、赤城山(地藏岳)登山に向けて出発します。

各回定員は30名程度を予定しています。参加希望はホームページ上のフォームからお申し込み下さい。

(文：梁河)

### ◆◆◆異動のお知らせ◆◆◆

下記の通り、人事異動がありましたので、お知らせします。

平成31年4月1日付け着任

次長 鈴木 昭博  
(前職：茨城県古河市立総和南中学校 教頭)

企画指導専門職 奈良 貢  
(前職：前橋市立上川淵小学校 教諭)

企画指導専門職 塩原 基寧  
(前職：栃木県佐野市立赤見小学校 教諭)

事業推進係長 福岡 公平  
(前職：国立能登青少年交流の家 事業推進係長兼企画指導専門職)

事業推進係 山川 晃  
(前職：本部総務企画部調査・広報課 調査情報係員 兼 青少年教育研究センター企画室 総務係員)

総務係長 吉田 真祐  
(前職：群馬大学総務部総務課総務係 主任)

事業推進係 吉田 賢  
(新規採用)

平成31年3月31日付け転出・退職

次長 穴澤 忠弘  
(転出先：本部子どもゆめ基金部 助成課長)

主任企画指導専門職 田村 佳之  
(転出先：群馬県教育委員会生涯学習課 指導主事(主幹))

企画指導専門職 小倉 祐司  
(転出先：栃木県足利市教育委員会生涯学習課 社会教育主事)

総務係長 池守 善洋  
(転出先：群馬大学総務部人事労務課 専門職員)

【退職者】  
事業推進係長 丸山 峰樹  
事業推進係 渡邊 あゆみ・手島 まき子  
総務係 間瀬 咲樹花 管理係 新井 淳

次号は、  
7月上旬発行予定!



←QRコードからも  
ご覧いただけます。

「交流の家HP」  
「Facebook」で  
当所の情報を更新中

体験の風を  
おこそう

国立赤城青少年交流の家 <https://akagi.niye.go.jp/>

TEL:027-289-7224 (9:00~17:00) FAX:027-289-7226

あかぎ カラゴロリ

〒371-0101 群馬県前橋市富士見町赤城山27 E-mail:akagi@niye.go.jp

風と太陽のくにからの通信誌

# カラゴロリ



風のおと

## 『2年目の春に』

満開の桜に迎えられ、着任してから1年が過ぎました。無事に2年目を迎えられる事、感謝しております。

春は、別れと出会いが一度に訪れます。3月末に、9人の仲間(穴澤・田村よ・小倉・丸山・池守・間瀬・渡邊・手島・新井)を送り出し、4月には、7人の仲間(鈴木・塩原・奈良・福岡・山川・吉田し・吉田さ)を迎えました。本年度は、2名減でのスタートになりますが、どうぞよろしくお願ひいたします。

平成30年度は、おかげさまで約13万8000人の皆様に  
ご利用いただくことができました。本年度は、昨年度末

に完成いたしました「ササビー広場」で幼稚園・保育所・認定こども園の子供たちと「ガイドブック「赤城で遊ぼう」」を活用した運動遊びの広報活動を進めていきたいと思っています。

狂言師の野村萬斎氏が、「ちゃんとした基本をマスターした上で型から外してやると、初めて大成する」と話されていますが、基本に忠実に職員一同取り組んでいきたいと思っておりますので、応援くださいますようお願いいたします。

所長 松村 純子



## 小学生ラグビー交流会

3月16日(土)～17日(日)に「小学生ラグビー交流会」を実施しました。本事業は、今年度で3回目の小学生ラグビー交流会です。元日本代表選手であった、ワールドネイツスポーツプロモーションの三宅敬氏はじめ、豪華な講師陣をお招きし、群馬県内外のラグーマン達との親睦を図りました。

参加者は、群馬県内外の小学生ラグビースクール(男子・女子)で、群馬県内5チーム、埼玉県内2チームから小学生137名、指導者41名、合計178名でした。

1日目の4～6年生については、ラグビークリニックとAAP(あかぎアドベンチャープログラム)を実施し、ラグビースキルやチームワーク等の向上を図りました。



1～3年生については、親しみやすいラグビーを通して、他チームとの交流を図りました。

2日目のラグビークリニックについては、ゲスト講

師として、パナニックワイルドナイツの現役選手や元日本代表の選手達に指導していただき、基本スキルの向上を図りました。



参加者のアンケートには、「他のチームと一緒にラグビーをすることができて良かったです。」「いつもとは違う練習メニューで、コーチングも勉強になりました。」「AAPでは、チームワークの大切さを感じました。」「コミュニケーションの取り方に関して、貴重なお話が聞けました。」「基本スキルを楽しく指導していただきありがとうございました。」等の感想がありました。

(文:田村(文))

### これからの動き

下記の事業の詳細は国立赤城青少年交流の家までお問い合わせください  
→TEL:027-289-7224 ホームページにも随時掲載しています。

■「ボランティア養成セミナー」  
日程:5月18日(土)  
～5月19日(日)1泊2日

ボランティア活動をするために必要な知識や技術、人間関係づくりについて学ぶことができます。また、座学だけでなく、野外炊事や救急救命講習では体験を通して、実感的に学ぶことができます。

■体験の風をおこそうブース出展  
5月25日(土)～26日(日)

2019年5月25日(土)、26日(日)に臨江閣別館(前橋市)において、「和のコトAsobi～前橋レトロリップ～」がありま。そこで、国立赤城青少年交流の家でも缶バッチ作りのブースを出展します。

■自然体験活動指導者(NEA Lリーダー)養成事業  
6月29日(土)  
～30日(日)1泊2日

ボランティア養成セミナーの受講者向けのスキルアップ講習として、楽しく安全に活動を指導するために自然体験活動指導者(NEALリーダー)を養成します。認定試験に合格すれば、資格取得も可能です。

## 周辺施設の利用料割引のお知らせ

赤城に宿泊したファミリー向けと周辺施設利用促進(地域連携)の観点から、「赤城自然園」「ぐんまフラワーパーク」「レオナルド・ダ・ビンチ牧場」「世界の名犬牧場」への利用に際して、ファミリー向けの入場料等の割引特典がございます。ぜひご利用ください。

## 体験の風をおこそうフェスティバル2018 inイオンモール高崎



1月26日(土)に、群馬県から「体験の風をおこそう」運動推進事業の「体験の風をおこそうフェスティバル2018」高崎で開催しました。

当日はぐんまちゃんも登場し、一緒に写真を撮ったりしました。



実行委員会の各施設が松ぼっくりフクロウ作り、お箸づくり、鉛筆削り体験、ペンダント作り、スライム作り、缶バッチ作り、凧作り、昆虫ふれあいコーナー、昆虫クラフトの9つの体験ブースを出展し、多くの方々に体験活動を提供しました。

参加者からは、「とても楽しく活動できた」、「初めて自分でお箸を作ってくれしかった」、「日本にいないカブトムシに触れることができてよかった」などの感想を頂き、大盛況で終了することができました。

この体験の風をおこそうフェスティバルは、今後も大型商業施設等で引き続き実施し、より多くの方々に体験活動を提供していきたいと思えます。(文:梁河)

### 【利用者からのお手紙や活動の様子を紹介します】

## 利用者のみなさま

3月13日(水)～15日(金)の2泊3日ご利用いただいた株式会社ミツバの新入社員オリエンテーションを紹介します。

株式会社ミツバは自動車用製品(四輪電装)やバイク用製品(二輪電装)、ライフサポート製品、自動車用品などを手がけている会社だそうです。

3日間を通して社会人としての心構え、挨拶や身だしなみについての講義、理念の唱和、チームの結束を高めるためにアイスブレイクやグループワークゲーム等を研修として行っていました。



株式会社ミツバのみなさんは、廊下ですれ違う時には元気な挨拶をしてくださり、とても明るい雰囲気でも過ごされているようでした。交流の家での研修がこれからの業務に活かされるよう職員一同祈念しております。

(文:渡辺)

## 交流の家を見る

国立赤城青少年交流の家で活躍する、非常勤講師やボランティアの方が交流の家の魅力を紹介します。

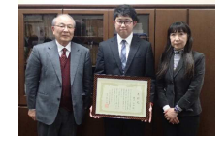
## 【法人ボランティア表彰】

私は高校3年生の時から国立赤城青少年交流の家の法人ボランティアとして、約4年間活動してきました。活動内容としては、施設整備や主催の事業の手伝いをしました。

その中でも、心に残っているキャンプは、サンサンかがやきキャンプです。サンサンでは、障害のある子供を含む小学生を対象にしています。そしてこのキャンプは私のボランティアを始めるきっかけでもあります。

サンサンを通して、子どもに寄り添う大切さや、準備の大切さを学びました。準備を怠れば、子供を楽しませられないだけでなく、怪我等のリスクも高まります。準備の段階で、子供たちのことを考え、どんなサポートが必要なのか、どんな体験をして、なにを感じて欲しいのかなどを、考えることで、リスクも軽減し、何より子供たちの体験に繋がり、成長することが出来ることを学びました。

(文:原口隼一(法人ボランティア))



東京福祉大学教育学部の原口隼一さんが、国立赤城青少年教育振興機構が実施する「ボランティア表彰」を受賞しました。国立赤城青少年交流の家で法人ボランティアに登録した学生として初めての受賞です。